

いわて海ごみなくし隊 (CFB・海と日本2022)

いわて海ごみなくし隊実行委員会

<岩手県と一体となって「海洋ごみ対策」を推進！テーマは「川と海はつながっている！」>

岩手では内陸部・山間部の方を中心に「海への関心」が希薄なため、今年度は「川と海はつながっている！」をテーマに取り組みを行った。当委員会が参画した、県の「海洋ごみ対策計画」をもとに、「海ごみゼロウィーク」イベントや子どもたちを対象にした「環境出前授業」などの事業を県と連携しながら実施。河川環境整備活動も積極的に支援。また内陸部を中心に、イベントでの露出や企業連携をし、海洋ごみ問題の認知向上のため取り組みを行った。

2022年度 実施状況について

■ 岩手県との連携～清掃活動・出前授業など
<課題・背景>
全県で取り組むための体制づくりが不十分

■ 盛岡さんさ踊り いわて海ごみなくし隊チーム
<課題・背景>
都市部（内陸部）を中心に活動PRの不足

■ オリジナルリサイクルBOX試作
<課題・背景>
リサイクルBOXの異物混入が問題となっている

■ 高校生によるラジオCFBキャンペーン大賞
<課題・背景>
学生が考えて発表できる場の創出



・概要：清掃イベント等を岩手県と共同開催
・目的：行政と連携して活動を広げる
・場所：久慈市長根浜、一関市北上川等
・連携先：岩手県、久慈市等
・効果：海ごみゼロウィークのイベントでは、市長も参加し、ラジオ生放送で全県に発信。清掃は年間約1万人が参加。環境出前授業は、内陸部を含む県内4か所で開催。海洋ごみパンフレットをテキストに海洋ごみ問題について学び、清掃活動を実施。



・概要：さんさ踊りパレードに「CFB」チーム出場
・目的：CFBの認知拡大、身近に感じてもらう
・場所：盛岡市中央通り・盛岡さんさ踊り会場
・連携先：盛岡ちびっこさんさ運営委員会
・効果：約10万人の観光客・見物客に、オリジナル浴衣、横断幕などで活動をPR。特別番組内でもその模様を紹介。また環境に配慮し、柄もすべて紙製の「海洋ごみ啓発うちわ」を作成。まつり当日に観客や踊り子らに配布した。



・概要：リサイクルBOXの製作と異物混入調査
・目的：リサイクルBOXの異物混入を防ぐ
・場所：盛岡市中央通り、同大通り等
・連携先：みちのくコカ・コーラボトリング
・効果：キャラクターの造形のオリジナルBOXを作成し、3か所に設置。異物の数を調査。設置の前後2週間で造形付きBOXは一般ごみの混入個数が62%減少した。次年度は、リサイクルBOXのデザインなどに学者や専門家などの意見を交えて工夫を加え、一般ごみ混入個数を調査前後でより減少させていく。



・概要：高校生のラジオCMコンテスト
・目的：若い世代の感性で海ごみ啓発を表現
・場所：IBCラジオ「アフタースクールらじお」
・連携先：岩手県高校文化連盟
・効果：優秀作品は実際にキャンペーンCMとしてOA。若者向けのラジオ番組で結果を発表。「いわて海ごみなくし隊」隊長の吉本興業の芸人・アンダーエイジがゲスト出演。優秀作品は、県内路線バスの車内でも放送。

その他：「海のビール」と「リユースカップ」での啓発、「杜の住宅公園みらいえ ごみ拾い大作戦」企画、3R推進ポスターコンクールを実施

メディア露出



5/29 「岩手日報IBCニュース」
久慈市民などによる
久慈市長根浜でのごみ拾い活動
の様態取材・放送



8/17 「特別番組 盛岡さんさ踊り」
いわて海ごみなくし隊チームが紹介され、
CFBオリジナル浴衣や横断幕が露出された。ごみ拾い活動の様態取材・放送



9/11 「岩手日報IBCニュース」
盛岡市内の住宅展示場周辺にて
盛岡市長含む盛岡市民などによる
ごみ拾い活動の様態取材・放送



10/14 「海と日本プロジェクトin岩手」
「コスプレde海ごみゼロ大作戦
2022at横浜」の様態取材・放送
その他：TV15本 新聞4件 掲載

2022年度の課題とこれからの展望

PR活動などによりCFBの取り組みは認知されてきているが、内陸部の方を中心に、海洋ごみ問題解決のための意識が浸透しきれていない。「岩手ならではの課題の解決」に海洋ごみ問題の啓蒙を絡めて行うなど、県民一人ひとりが海洋ごみ問題をより身近に認識し、行動を変えてもらえるような取り組みが必要である。また、より全県的な取り組みとなるよう官民一体となって進めていく必要がある。